

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

〔 2-1 豪徳寺駅周辺風景づくりの会 〕

運営委員長 土肥真人

昨年作成されたパンフレットを活用し、さらにWSを重ねてより多くの人々をつながろうという姿勢は、すばらしいと思います。人のいる風景、人がつながっている風景をぜひ実現してください。また人がいる風景バージョンのマップも見てみたいな、などと考えてしまいました。

運営委員 板垣正幸

古道瀧坂道の歴史を伝え、街歩きを通して地域のコミュニティ活動をされていることは素晴らしいことだと思います。引き続き多くの方の賛同者が広がるように期待しています。

運営委員 市川 徹

地道な活動ながら、昨年度あのようなマップをつくられたことは大変すばらしいと思います。今後、活動メンバーや賛同者をどのように増やしていくかが課題になるかと思いますが、どうしても堅いテーマになりがちなので、多くの人が気軽に参加できるような内容のイベントやワークショップを考えるとよいかと思います。

運営委員 鵜尾雅隆

今年度の事業計画の中で特筆している、賛同者の拡大と継続的活動という目標はとてもいいと思います。今後に向けて是非、いい方向性を導きだしていただければと思います。

運営委員 小河原孝生

はじめの一步から着実な展開を重ね、マップなどのツールもそろい、3年目の今年は活動拡大のため、コンサルタントを依頼してのワークショップやイベントを通して参加者を増やし、継続的な活動につながることを期待しています。満額です。

運営委員 小原美穂

賛同者獲得のためには、ワークショップでみなさんがどのような思い（主義や主張）をお持ちかを共有することと、ワークショップの参加者がどのような考えを持っているかをしっかりと聴くことがとても重要になります。一方的に思いを伝えるのではなく、まずはお互いを知ることに軸足を置いてみてはいかがでしょうか。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

運営委員 影山知明

活動が進捗し、次第に「巻き込み」の段階に入っていくのかと思います。その点で、少し呼びかけのテーマが堅いかなという印象を持ちました。資料中にもあった「せたがやカフェ」との連携など、よりソフトで多くの人に参加しやすいプログラムの検討を期待したいと思います。

運営委員 佐谷和江

北沢緑道や瀧坂道のように、一般の人からみると特に問題がないところについて、地域の興味をどう盛り上げていくか？難しいかとは思いますが、少しずつ人の輪を広げていってもらえればと思います。

運営委員 首藤万千子

風景づくりのためにご尽力されている様子がわかります。昨年度のアンケート実施やマップづくりから、今年度は今後のまちづくりに向けてどのように展開していくのか、期待しています。

運営委員 福永順彦

地域への愛着を感じる活動です。こうした地道な活動を続けることで「まち」が立体的に見えてくる。そうするとさらに愛着が湧いてくる。それを地域の方々が自主的に支えていることに対して、ぜひ支援したいと考えました。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

〔 2-2 「道の会」 〕

運営委員長 土肥真人

自分たちのまちの道路に名前を付けようという発想と実行力に脱帽です。ひとりでも反対の人がいたらその名前は付けないというのも、まちの優しさを表しているようでした。やはり住民の方は自分の家の面している道路が一番気になるのでしょうか？今度教えてください。

運営委員 板垣正幸

道に愛称名を付けることにより、地元の方々が道に愛着を持ったり、また災害時に役立つことを期待しております。愛称を付ける際に地元の合意を前提とされ反対があれば無理に付けないとの姿勢は大事だと思いました。

運営委員 市川 徹

昨年度で一気に愛称の選定からプレートまでつけてしまった活動力には大変感服です。愛称がきっかけとなって、みんなが地域のことを考えるようになるというアイデアもすばらしいです。今年度はぜひプレートやマップをつけてしまった後の活動についてもイメージを膨らませておいてください。他の地域のモデルになることを期待します。

運営委員 鵜尾雅隆

「通りに名前を付ける」という、シンプルなようであり、意外と大変そうで、かつ、まちの魅力が高まりそうな取り組み、昨年の助成審査のときから、どうなったかが気になっていましたが、着実に通りに名前が付き、また、いろいろな人を丁寧に巻き込んでいっている様子が見えて嬉しく思いました。

運営委員 小河原孝生

昨年の審査で指摘された、道に愛称をつけるプロセスを重視し、住民との対話やアンケートを通じた、暖かな関係づくりが進んでいる様子が伝わりました。今年は、さらに合意形成に重点をおいて、愛称を通じたまちづくりの展開を期待しています。満額です。

運営委員 小原美穂

マップづくりをワークショップスタイルにして地域の子ども達やデザインを勉強している学生などに参加してもらったり、マップ取り付け作業をイベントに仕立てて、地域住民の参加を募るなどの工夫をしてみても良いかもしれません。

運営委員 影山知明

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

「道に名前をつける」それだけのことではありますが、とてもクリエイティブで、地域に対してとてもいい波及効果を期待できる取り組みであると感じました。他地域へも展開し得るようなモデルでもあると思いますし。「道に名前をつける」行為に、何かいいネーミングをできたら、より多くの人の口にのぼる取り組みになるのではないかと思います。

運営委員 佐谷和江

活動としては意義あると思いますが、私は自治会がやるべきことだと思いますし、これを自治会がやることによって自治会の意義・役割が再認識されるのではないかと思います。このためマッチングファンドの考え方を準用して自治会からの費用と同額をファンドから助成してはどうかと考えました。

運営委員 首藤万千子

味わいのある楽しいまちづくりだと思います。近隣住民の同意を得たりするのは大変なことと思いますが、アンケートの実施、意見交換会などを行い、できるだけ意見をすくいあげようという姿勢は素晴らしいと思います。できるだけ手づくりというのも好感が持てます。今年度の活動に期待します。

運営委員 福永順彦

名前をつける、ということで、今まで何気なく感じていた場所が急に輪郭をもって浮き上がってきます。「道の会」の活動は、地域への思いも、名称をつけるプロセスもとても丁寧にされていると思い、満額票を入れました。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

〔 2-3 岡さんのいえTOMO 〕

運営委員長 土肥真人

安定した活動を繰り返されているようで感心しております。結果的に助成額が昨年よりも大きく減りましたが、どうか質の高い「まちのお茶の間」を保っていただきますよう。これに関連してですが（まだ先のことだと思いますが）、助成後の「自立」のことも、一緒に考えさせていただければと思っています。

運営委員 板垣正幸

「地域共生の家」として活動が進化していると思いました。特に昨年の「触れ合う」から今年は「つながる」というテーマを設定され、目標をしっかりと持ちながら活動されることに感心しました。

運営委員 市川 徹

人を巻き込むためのイベントの多種多様さについては大変感服するばかりです。が、イベントにはやはり支出が伴いますので、消耗品のいらぬ内容を考えたり、近所に呼びかけて材料を提供してもらったり、リサイクル品を使ったりなど、今後の継続のためにも、イベントをするにもなるべく支出を減らす工夫を考えてみてください。

運営委員 鵜尾雅隆

着実に活動を広げて、参加者を増やしておられることが分かり、大変うれしく思いました。経済的自立に向けた取り組み、決してあきらめずに追求していただければと思います。そうした期待も込めて、減額査定にしています。

運営委員 小河原孝生

昨年の助成を活用して、地域との連携が軌道に乗り、今年は「つながり」、来年は「拡がり」がテーマとのこと。参加費や材料の販売等を工夫して、持続可能な「地域共生の家」のモデルを作っていただきたいと期待しています。

運営委員 小原美穂

今年はブランド確立のための助走期間ととらえ、岡さんのいえTOMOに人が集まる魅力は何か、他にはないTOMOならではの魅力は何かを見つけて、形（リリース、イベントその他の活動）として表現して欲しいと思います。

運営委員 影山知明

とても地道に活動を続けていらっしゃることに感銘を受けました。ただ「赤字体質から

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

脱けることはほぼ不可能」と決め付けてしまわず、取り組みの中から健全な収益をあげる工夫についても、是非検討していただきたいなと思いました。

運営委員 佐谷和江

実績が蓄積されていて、今後の展開が期待されます。ただ、イベント5回で費用が80万円弱というのは支出が大きすぎるように感じました。難しいかもしれませんが、収支が合うようなイベントを組み立ててはどうでしょうか。

運営委員 首藤万千子

活動のひろがりやつながり方が素晴らしいと思います。また場や活動の特徴を捉えて、アピールしているテクニックも素晴らしいと思います。関わっている皆さんの様々な力が生かされ、トラストまちづくり大学終了生が中心となっているだけのことがあるのでは？と本当に感銘を受けています。今年度の活動にも期待しています。

運営委員 福永順彦

民間の場所を公共的に開いていく。一見すると何のメリットもないのに、なぜそんなことをするのだろうと言われるかもしれません。しかし、そこで生まれる人のつながりが「まちづくり」のエネルギーを生む拠点になっていくのだろうと思います。そのために汗をかいている方々に敬意を表します。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

〔 2-4 芦花公園しあわせの野音の会 〕

運営委員長 土肥真人

審査会でも申し上げましたが、外で活動することも意味、活動を通じて顔見知りになることの意味、の検討から、災害時の外での避難生活へとつなげる発想と提案には感銘を受けました。昨年の活動に加えて、ぜひさらに地域の人々のつながりを公園を軸に広げて深めてください。

運営委員 板垣正幸

野外ステージでのパークライブが順調に運営活動されている様子を楽しくお聞きしました。時には苦情などもあるのかも知れませんが、引き続き活動を広げ多くの方の発表の場となることを期待します。

運営委員 市川 徹

数年前に拠点作り部門で応募してきた時よりも、今の方がはるかに地に足ついてきた印象があります。ぜひ地域に定着した継続的な活動になるよう、いかに手をかけずに回していけるか、どう賛同者やスタッフを増やしていくか、地域からの応援をどう得ていくか、そのあたりの工夫が必要になってくるかもしれません。

運営委員 鵜尾雅隆

昨年度の企画のお話を聞いた段階から、着実に1年間取り組んでこられたという印象を受けました。地に足のついた活動を引き続き継続していただけると嬉しいです。協賛獲得などで更に自立性を高めてください。

運営委員 小河原孝生

拠点としての野外ステージづくりから始まった活動が、昨年の助成を基に野音の会としてパークライブの拡がりをみせています。今年は、災害時の活動とも協働するなど活動の幅を拡げ、協賛金を得て自立が目指せるように期待しています。

運営委員 小原美穂

（既にそうされていたら申し訳ないのですが、）パークライブの企画運営や出演者に、地域から参加を募ってみてはいかがでしょうか？企画に関わってみたい、演奏したいと思っている来場者もいるような気がしました。

運営委員 影山知明

公園という、誰もがふらっと気軽に立ち寄れるきわめてオープンな空間が、人と人の新

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

しいつながらや取り組みを生み出す「場」となっていることが素晴らしいと思いました。また音楽という切り口も、間口が広く、いい出会いにもつながりそうで、いいなと思います。あとは自立に向けての事業性検討が、これからの課題かと思いました。

運営委員 佐谷和江

実績が着実に蓄積され、ネットワークも広がっていると思います。ファンドがスポンサーとなっている間に次のスポンサーをどう見つけるか、期待しています。

運営委員 首藤万千子

皆さんの情熱と努力によりテージが定着し、今年度は災害村とも連携し、ステージからひろがる人のつながりを意識している活動が素晴らしいと思いました。災害時にも役立つ簡易な野外ステージ、期待しています。

運営委員 福永順彦

音楽を通して地域の人がつながり、楽しく明るい街がつくられていく。そのことを実践し、成果を上げている活動だと思いました。今後ともぜひ継続して行ってください。応援しています。

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

〔 2-5 わいわいコミュニティ・たまがわ 〕

運営委員長 土肥真人

ものすごい活動量に圧倒されました。のべ参加者 1500 人余、本当に驚きました。昨年度からの課題である、参加者の準備・片付けへの参加、高齢者施設ならではの高齢者、子どもとの交流、どれも簡単には行かないけどあきらめないでゆっくり進められるとのこと、心強い言葉です。ぜひ少しづつの成果をあげてください。

運営委員 板垣正幸

24回のカフェの開催、12回の情報紙の発行など大変活発に活動されていることに感心しております。課題が「参加者が増えて負担が大きくなっている」とは嬉しい悲鳴でしょうか。引き続き盛会な活動を期待します。

運営委員 市川 徹

参加者が順調に増えているということで、スタッフのみなさんの努力により、きっと居心地のよい空間づくりがうまくできているのだと思います。しかし、お客さんはそのままではいつまで経ってもお客さんのまま。スタッフの負担を減らして活動を継続していくためにも、ぜひ参加者が運営側に回ってもらえるようなしなやかづくりを考えてほしいと思います。

運営委員 鵜尾雅隆

既に46回開催しているということ、多くの方が参加しているということは良いですね。「三世代コミュニケーションの場づくり」というのは、実際には大変な苦労や課題にも直面することだと思いますが、引き続き、このテーマへのチャレンジを期待しています。来年の報告では、シニアの巻き込みの発展状況についても詳しく聞かせてください。

運営委員 小河原孝生

はじめの一步から3年目の今年は、参加者の増加に対応した運営が課題とのこと。参加者から世話役への移行やシニア世代の参加促進など、自立した運営に向けて、仕組みづくりやサポート体制のモデルとなるように期待しています。

運営委員 小原美穂

核家族化、単独世帯が増加する現代において、地域での家族ではない多世代交流は今後ますます求められると思います。自立への道のりは楽ではないと思いますが、ぜひ成功させてここでのノウハウを地域内外へ広めて欲しいと思います。

例えば、収入で、価格設定を松竹梅にしてバリエーションを作ってみてはいかがでしょ

公益信託世田谷まちづくりファンド
第18回（平成22年度）助成事業審査講評
【 まちづくり活動部門（2回目） 】

うか。

運営委員 影山知明

46回ものカフェの開催、毎回30～40名という参加者数、23号もの情報紙の発行。まさに継続は力なりで、地域のつながりづくりに大きく貢献されている様子が伺えました。あとは、この場を運営する側にどれだけ人を巻き込めるかが課題であるとする、そういう意味でも「料理」というきっかけをもう少し活用できそうに感じました。

運営委員 佐谷和江

この数年は活動を軌道に乗せる時期だと思いましたが、そのように展開していると思います。今後、どういう継続の仕組みをつくっていくか、期待&興味をもっています。

運営委員 首藤万千子

他世代が集まり、おいしい食事作りやものづくり、講座の機会を、というのはとても魅力的なまちづくりだと思います。参加者が主体的になれるよう、という考え方に賛同します。『自主料理』という言葉にとっても興味を覚えました。作業しながらの団欒は人のつながりをつくるのにとっても役立つと思います。今年度、自立に向けての活動にとっても期待しています。

運営委員 福永順彦

世代間の交流をつくるということは、言うのは簡単ですが、なかなか難しいと思います。とても上手に運営されていると感じました。ぜひ、この手法を他の方に伝えられる活動になっていただきたいです。